

喫煙と健康についての教材に関する一考察

福田 雅史 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)
指導教員 中菌 伸二

キーワード：保健授業、「授業書」方式、工夫された教材・授業形態

1. 緒言

今まで私が受けてきた保健の授業、他の中学校・高校の保健授業というのは教師が一方的に話し、黒板に大事なことを書きそれを児童・生徒が自分のノートに書くだけというような教師主体の授業形態が大半である。私が高校の教育実習で授業をしたときも上記と同じ授業方式だった。やはり今まで経験してきた方式では寝る生徒や全く教師の話聞いておらず知識を習得していないという状況が起きてしまった。そこで、生徒が興味を持つ保健教材案を「授業書」方式で開発することをこの研究の目的とする。

2. 研究方法

教育実習で作った指導案の考察、大学生 38 名を対象とした保健授業に関する無記名自記式質問紙調査による考察、「授業書」方式による保健教材案の作成と考察

3. 結果および考察

1) 教育実習で作成した指導案とそれを用いた保健の授業についての分析

教師が重要なキーワードや語句などポイントを押さえて黒板に書いているとき、生徒は真剣にノート記入を行っている。しかし、教師主体、作業や取り組みが無くなったときは授業に関心を持たず知識習得に乏しいと考えられる。

2) 「授業書」方式による保健教材案の開発と分析

授業の展開や内容は教師主体と生徒主体の両方を兼ね揃えており、発問に対する討論・グループ活動が中心である。あまり教科書を使わ

ず、発問や黒板に注目させ人の話を聞く体制が自然と出来上がる。従って、保健の知識習得、授業に対する取り組み方が向上すると考えられる。

(3) 質問紙調査結果と考察

中学・高校の保健の授業は、教師主体の授業が多く、生徒主体の授業よりも面白い・楽しいとは思っていない傾向が示唆された。(p<0.05)

中学・高校での保健の授業を振り返ってみると、授業の中で教材・教具を使った生徒に興味を持たせるなどの工夫が見られないという意見も多数挙げられた。それに比べ、「授業書」方式は生徒自身が進んで授業に取り組む内容になっているので考える時間が多くなる、活動する時間の確保が出来ているため生徒主体の授業展開になるのではないかという意見が挙げられた。

4. まとめ

保健の授業形態としては、生徒の身近な話題や関連した教材を用いることで興味・関心を持ち、多くの知識習得が出来ると考える。いかにして生徒自身を授業に参加させるか、現在の社会と関連付けさせた教育内容や興味をひかせる教材・教具、授業展開の工夫が今の現場教育には求められていると考えられる。

参考文献

保健教材研究会 (2004) 最新「授業書」方式による保健の授業。大修館書店。
與儀幸朝 (2012) 保健授業を活性化させる 5 つのポイント。体育科教育。60 (8) : 30-33.